

2000年 シックハウス症候群疫学調査

～シックハウス症候群～ 眼・気道粘膜の症状はホルムアルデヒド濃度に依存

2000年8月～10月に、大阪府下を中心とした関西在住のシックハウス症候群を訴える応募者83人とその家族111人、対照群として健康者38人の疫学調査と居住住宅95戸、205室のホルムアルデヒド測定と、間取り・換気等の住宅および住まい方の調査を実施しました。

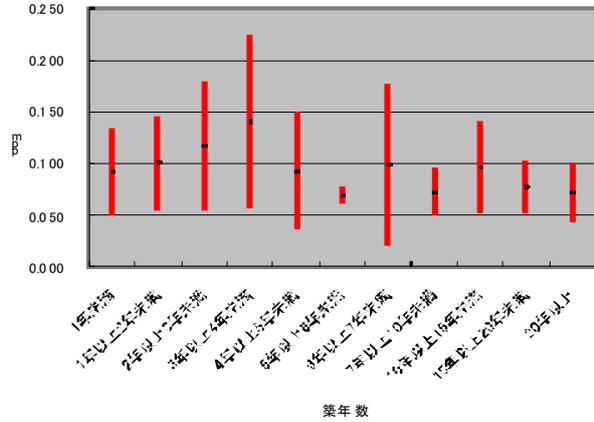
医師・建築・測定・環境の専門家最低4人がチームを組み、各家庭訪問により調査を行いました。

ホルムアルデヒド平均濃度は応募者群の住宅と対照群の住宅で有意差が観られました(下表)。

厚生労働省の指針値(0.08ppm)を上回る住宅は応募者群で 55.8%、対照群で 43.6%にのぼり、築年数4年にホルムアルデヒド濃度の高い傾向が観られました(右図)。

応募者の自覚症状は、いずれもホルムアルデヒドに暴露されると現れる臨床症状で(下図)、特に咳の発現率は0.08ppm を越えると3倍以上の上昇が観られ(最下図)、粘膜と気道の症状は濃度に関連する事が解明されました。

築年数と室内ホルムアルデヒド濃度

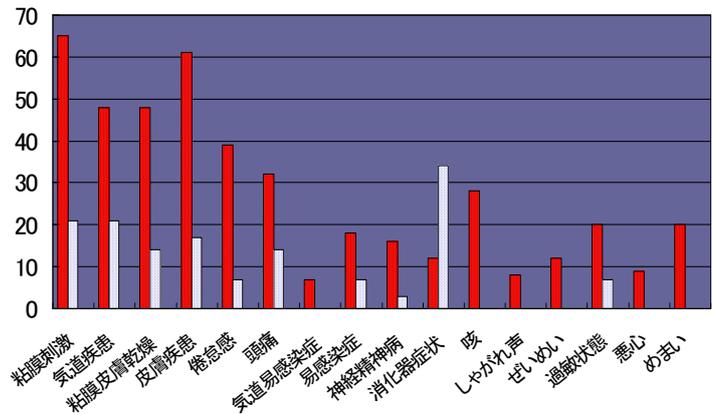


シックハウス症候群を主訴とする人の自覚症状

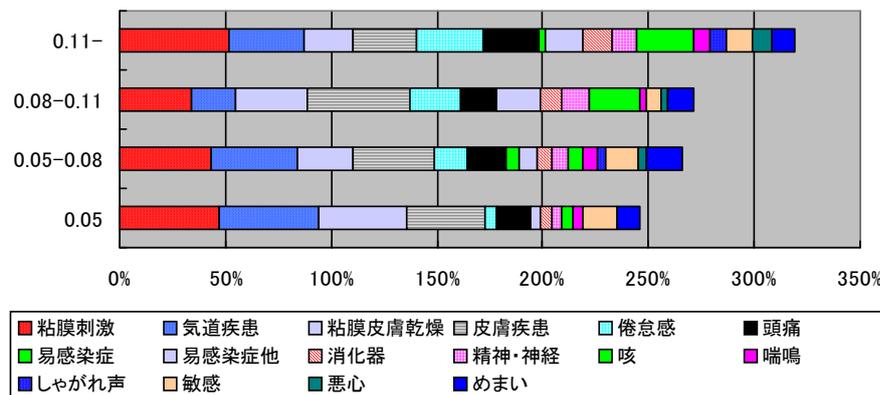
室内ホルムアルデヒド濃度測定結果

- ◆ 住宅のホルムアルデヒド室内濃度の平均値
 - 応募者住宅(161室) 0.109 ±0.069
 - 対照者住宅(37室) 0.082 ±0.044 (ppm)
 - 応募/対照=1.3(倍)
- ◆ 厚生労働省の指針値 0.08ppmを上回る住宅
 - 応募者住宅 55.3 %
 - 対照者住宅 43.2 %
- 室内空気対策研究会(2000.9-2001.3)
 - 4482戸 ホルムアルデヒド濃度指針値超過例 27.3 %

■ 患者群 □ コントロール群



室内ホルムアルデヒド濃度と症状



- 研究主体
- NPO・シックハウスを考える会
 - 共同研究
 - 大阪大学大学院国際公共政策研究科
 - 関西医科大学公衆衛生学教室
 - 関西医科大学耳鼻咽喉科教室
 - 大阪市環境科学研究所
 - 大阪府医師会
 - 全国保険医団体連合会
 - 全国研究賛同医師団
 - 大阪府建築士会